

すなお

令和2年8月号

おやのことば

皆んな出て来る。満足を与える。満足の理が世界。今まで結構は分かりてあれども、この理が分からん。

明治二八年十月七日



会長

皆さん、日々暑さ厳しい中ですがお勇みさまです。暑い時期になり、八月となると思い出します。平成二十三年八月の月次祭前に前立腺炎が原因の高熱に苦しみ、その上尿も出にくくなりました。内心（これはやばいかも、、、）と感じながら月次祭当日を迎え、祭文奏上と座りづとめだけをつとめて休ませていただきました。

その後も日は経つがなかなか症状が改善しないので、不安な気持ちから自分なりにああしたら、こうしたらとバタバタしていました。そんな時親会長さんより「かしの・かりものの理が分かってないなあ」とお仕込みいただいたことを思い出します。

本当に分かっていなかったのです。会長という立場があるから分かるのではなく、心の成人がなければ分からないのです。身上・事情は辛いものですが、そんな時にこそ心がぐっと成長・成人するものだと実感しました。

今のこの時期も心スツキリしない日々が続いていますが、こんな時こそ心がぐっと成長・成人する時期なのです。



かしの、かりもの

田中道則

今年も猛烈な暑さがやってきました。外にいるだけで汗が吹き出してきます。7月の半ばに暑さと疲れで体調を崩しました。のどが腫れて一週間くらい声が出なくなり、現場で指示や人の振り分けをしているので大変でした。

先日、龍君が自身の身上を通して信者さん方に「かしのかりものの理」の尊さを伝えて下さいました。病気になって声が普通に出る事の有り難さが分かりました。また無理に理は無いので頑張り過ぎない事の大切さも感じました。

目が見える、体が動く、当たり前のことに感謝と感動を持って生きて行きたいです。



いつかまた、おちばで

椿 信代

今年は新型コロナウイルスの影響で様々な行事や集まりが中止になっています。私の会社でも4月、8月と東京や京都で大きなイベントをする予定でしたが、こんな状況なのでやむ無く開催を断念しました。

天理教でも夏のこどもおちばがえりが中止となり、私は生まれてから初めておちばに帰らない夏になりました。パレードのための楽器の練習もなくなり、瀬戸路につながる方々とお会いすることもない夏。おちばのうだるような暑さも毎年本当に堪えますが、無いとなるとそれはそれで物足りない気がしてくるのが不思議なものです。きっと全国でも沢山の人が同じ気持ちで夏を迎えたのかなと思います。

しかし、いつもと同じように実施はできなくても、ネットで販売したりオンラインで集ったり、形を変え方法を変えて世界は動いています。できないから諦めるのではなく、できる方法を探して何としてでもやるという気概で、この危機を乗り越えていかないと感じました。

元気で生かさせていただいていることに感謝して、いつかまたおちばで、皆さんと出会う日を楽しみに頑張りたいと思います。



感謝の日々

野間龍二

日々、もったいない、感謝の毎日を過ごさせていただいております。

入院してから、1ヵ月半になり、急性期を脱し、回復期に差し掛かっております。皆さまからの気持ちをいただき、先生方も過去に経験のない回復を見せていただいております。誠にありがとうございます。

しかしながら、神様は、見事に答えを出していただけますね。わたしは、今、どんな時も心をニュートラルな状態にする訓練のつもりで闘病しております。先案じしたり、不安な時は、とにかく、神様に御願い申し上げます。

本当に、この1ヵ月間、肉体的にも、精神的にも、沢山のご褒美をいただきました。本当に間違いないと、いいきれます。もったいないです。ありがとうございます。

教会ニュース

愛媛教区よりの連絡

献血のお願いです。献血移動バスの予定

8月30日 フジグラン今治、

9月1日 今治市役所、

9月6日 イオン今治店です。

各所の献血受付時間は様々ですので行かれる方は、教会に問い合わせいただくか献血バス運行スケジュールで検索して下さい。

夏の少年会行事開催予定

ご家族でおちばに帰参された方々にお楽しみいただける行事を企画していただいています。

期間 8月22日（土）23日（日）

時間 午前10時～11時45分 午後1時～3時

内容 回廊ひのきしん、リトルマガジンワールド、クイズラリー、水を使った遊び、おやさとやかた講話アニメーション、みちの子作品展

ようぼく誕生

今月5日に二宮真帆さんがおさづけの理を拝戴されました。新ようぼくの誕生です。



すなお (立教183年8月号)

通 卷 No.721
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2020.8.16
責任者 二宮英治